

14年最下部8部から36戦無敗!! 4年で2部昇格も

スポエド



女子バレー部の活動実績

シーズン	所属	順位	成績
14秋	8部	6位	0勝0敗
15春	7部	6位	0勝0敗
16春	6部	6位	0勝0敗
17春	5部	6位	0勝0敗
18春	4部	2位	4勝2敗
19春	3部	2位	4勝2敗

「1部との差を痛感した」
 スポーツ江戸川大学
 〒270-0198 千葉県流山市麻木474
 2019年 www.edogawa-u.ac.jp

江戸川大学

スポエド
 スポニチ
 監修
 強化指定4部を大特集

なげ!拾え!! 1部への切符



1部昇格まであと一歩に迫っている。江戸川大学女子バレーボール部は2014年に指定強化部となり、わずか4年で関東大学リーグ8部から2部まで駆け上がる目覚ましい成長を遂げた。その4年間の軌跡をたどり、強さの秘けつをひもとく。

「基本的にはボールを落とさないということが一番勝つ要素。強く打つても、変なふうに戻しても、1点は1点。一生懸命守ることがチームの特徴」

「ゼロから進撃」 主将、有永茜音(こどもコミュニケーション学科4年、千葉・市立柏高)は今が勝負どころだと強調する。「4年生にとって1部への挑戦権を取れるのは2回しかない。秋に上がれてもその後(自分)は1部でプレーできるわけではない。あと1年間しかないと思えば、(昨年の)悔しさを晴らせるように頑張ろうと思えます」と、昇格への思いを口にした。

2011年に就任した伊藤博監督は「(部を)つなぐのは何年か、9部あたりには高校から選手を送っていたけど、これはもう絶対です。その中で選手を集めていくのは大変でした」と当時を振り返る。高校の指導者としてインターハイ出場30回の経験をもつ伊藤監督は「2つりの苦勞は覚えなかった。新興の部であったため、時には風当たりの強さも感じたという。なんとなかの辺を切り抜けたら少ずつ、周りの(旧部の)監督からお話をいただいて少ずつ選手が増えてきた」と着実に地歩を固めた。

守備から徹底 リーグ戦では、無敗という驚異的な快進撃で2部に昇格した。その強さを支えているのは、とにかく拾うという守りのバレーだ。全日本ユースを率いて1999年の世界ユースで優勝するなど伊藤監督の国際経験が戦術の根柢にある。身長差に圧倒されながらも戦った国際大会が、大型選手のない江戸川大学の戦いぶりにつながっている。「基本的にはボールを落とさないということが一番勝つ要素。強く打つても、変なふうに戻しても、1点は1点。一生懸命守ることがチームの特徴」と伊藤監督は語る。

壁をぶち壊せ 1部昇格への最初の挑戦は跳ね返された。2018年度主将の新田真由(こどもコミュニケーション学科、埼玉・大宮東高)はリーグ戦無敗で上級生となり、最後に大きな壁にぶつかった。「春で入れ替え戦にいったが、そこで1部との差を痛感してしまっただけで、秋は同率2位ながらセット数の差で入れ替え戦出場を逃した。伊藤監督は「2部は各チーム相対しい選手がそろっている」と厳しさを実感させた。

「特等席で選手を支えるマネジャー」 楽しみは「一番近くで見られること」練習試合で主審も務める何でも屋

2部で強豪校と戦う女子バレーボール部で奮闘しているのは選手だけではない。高橋夏乃マネジャー(マスコミュニケーション学科2年、埼玉・春日部共栄高)は、同部初の専任マネジャー

としてチームを支える。小学3年でバレーボールを始め、高校を卒業するまでプレーに打ち込んだ。高校時代で「燃え尽きた」との思いがあり、大学では入部しないつ

プのサポートやテーピング、ユニホームの管理から大会申し込みまで多岐にわたる。練習試合では主審を務めることもある。今では、伊藤監督が「おかげでチームがより成長できる」と言う存在になった。忙しい日々で高橋マネジャーが最も楽しみにしているのが「試合を一番近くで見られること」。燃え尽きたはずが、

バレーへの強い思いを実感している。スポーツキャスターを目指し、マス・コミュニケーション学科で学ぶ。「マネジャーの経験をしたからこそ、広く周りを見ることができるようになったと思います」と全てが将来につながるかと信じて仕事に打ち込む。

「昨秋の敗戦を糧に…今こそ飛躍!! 有永主将「悔しさを晴らしたい」

「悔しさを晴らしたい」 有永主将は「悔しさを晴らしたい」と、昇格への思いを口にした。



江戸川大学
 EDOGAWA UNIVERSITY

社会学部	メディアコミュニケーション学部
人間心理学科	マス・コミュニケーション学科
現代社会学科	情報文化学科
経営社会学科	こどもコミュニケーション学科



2面男子バスケットボール部
 3面女子バスケットボール部
 終面サッカー部
 編集後記